

今号では、『摂食嚥下障害の服薬方法』についてお話しします。

飲みこむ力に合わせて安全に薬を飲む



せつしょくえんげしょうがい

摂食嚥下障害があると水の方が薬より早く口からのどへ流れてしまうため、むせやすくなります。

飲みこむ力に合わせて安全に薬を飲むように工夫します。



薬の飲み方の工夫

①ゼリーに埋めこんで飲む

【適応】 ゼリーを丸のみできる
口やのどにゼリーが残らない

※ゼリーについて
「ごっくん便り4号」をごらんください



【方法】

- スライスしたゼリーに錠剤を縦に入れる
- そのまま舌の奥にゼリーを置いて飲みこむ

②服薬補助ゼリーを活用して飲む

【適応】 ペースト状や、舌でつぶせる程度のやわらかい食事を食べることができる

※食形態について
「ごっくん便り4号」をごらんください



【方法】

- 服薬補助ゼリーを小皿に取る
- 薬を置く
- ゼリーは混ぜずに薬を包むようにゼリーをのせる

③トロミ水や食物に混ぜて飲む

【適応】 ヨーグルト等の食物やトロミ水をむせなく食べられる
錠剤が口やのどに残りやすい

※トロミについて
「ごっくん便り4-2号」をごらんください



【方法】

- トロミ水や食物を少量のみ小皿に取りわけ、薬を混ぜて飲みこむ
- 錠剤はみえないよう埋めこむ
- 口やのどに残らないよう、服薬後にゼリーを食べたりトロミ水を飲む

④簡易懸濁法で薬を溶かしてからトロミをつけて飲む

【適応】 薬や食物などが口やのどに残りやすい
トロミ水をむせなく飲むことができる



【方法】

- 簡易懸濁法で錠剤やカプセル剤を水に溶かした後、トロミをつけて飲みこむ



簡易懸濁法

薬をそのままお湯に入れて溶かす方法

薬の種類によっては溶けないことやこの方法ができないことがあります。
この方法により、苦み、しげきが伝わってしまうことがあります。
そのため、**この方法を実施する前には、必ず医師や薬剤師に相談しましょう。**

①容器に1回分の薬を入れる



②約55℃のお湯を20～30mL程度入れフタをして10分間置く



③10分後、容器をよくふって薬を溶かす



薬を飲むときも、食べるときと同じようにサポートが必要です。
安全かつ確実に薬を飲むことができるよう、
「ごっくん便り」1～7号もごらんください。



【引用・参考文献】

- 1) 倉田なおみ著：剤形別・症状別の知っておくべきこと、ブレインナーシング
メディカ出版、2022。
- 2) 倉田なおみ・石田志朗著：簡易懸濁法マニュアル第2版、じほう、2021。
- 3) 斉藤雅史・松田直美著：看護の現場ですぐ役立つ摂食嚥下ケアのキホン、
秀和システム、2018。
- 4) 若林秀隆著：高齢者の嚥下サポート、新興医学出版社、2017。
- 5) 倉田なおみ著：薬剤管理、摂食嚥下リハビリテーション第3版、
医歯薬出版、2016。



認定分野：摂食嚥下障害看護、脳卒中リハビリテーション看護
文責：竹内 英晃（宮古）